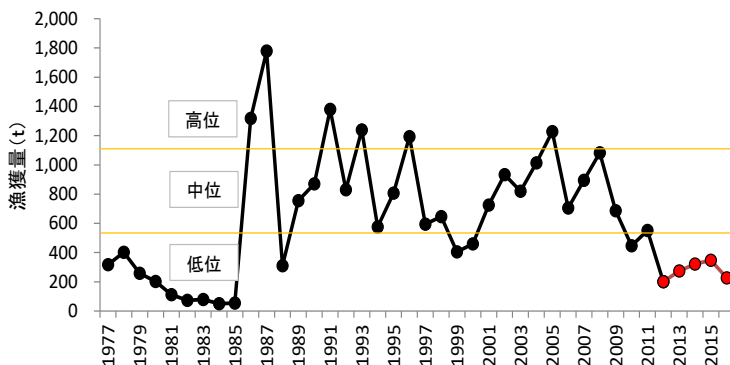


資源の動向 「低位・横ばい」

相模湾のマアジ漁獲量は2008年以降減少し続けており、マアジ太平洋系群資源量も減少傾向にあることから、相模湾での漁獲量減少の主要因は東シナ海から回遊するマアジが減少しているためと考えられる。相模湾での直近5年の傾向は「低位・横ばい」である。



相模湾のマアジ漁獲量の経年変化
(定置網:1977~2016)

主な対象漁業

○定置網



生物学的特性



○分布:日本の沿岸全域

○移動:東シナ海でふ化したマアジは本州沿岸域に北上し、産卵期には東シナ海近辺の大陸棚まで南下し、産卵後は索餌のため再び北上回遊するとされている。一方、地付きのマアジは地先付近で再生産していると考えられており長距離の回遊は行わない。

○成長・産卵:相模湾で漁獲されるマアジは1年で尾叉長18cm前後、2年で尾叉長21cm前後に成長し、成長が早い個体は満1歳で成熟し産卵する。東シナ海での主産卵期は2月~4月、相模湾近海では5月~7月に最も生殖腺が発達する。